

平成26年度内閣府 地震・津波防災訓練 【北海道浜中町】

実施報告書
(概要版)

実施概要

北海道浜中町について

浜中町は北海道沿岸東部に位置し、町の南側は太平洋に面しており約67kmの海岸を有しています。基幹産業として漁業と酪農を中心とした人口約6,300人の町で、漁業は沿岸漁業が盛んで、天然昆布の水揚げ量は日本一、酪農では高品質牛乳として全国から高い評価を受けています。また、霧多布(きりたつぷ)湿原は、3,168haの広さをもち、草花は数百種を超え、別名「花の湿原」として親しまれており、近年は「ルパン三世」の原作者モンキーパンチ氏が浜中町出身であることから、ルパンキャラクターにより全国へのPRを行っています。

浜中町では、昭和27年十勝沖地震津波、昭和35年チリ津波を始め、過去に幾度も地震・津波被害を受けています。北海道が公表した津波浸水予測では、最大津波高は34.6メートルで、町内の沿岸部に住む全世帯の約57%(約3,600人)が津波浸水区域となることが予想されています。



参照: 浜中町「はまなか津波防災マップ」

訓練概要

■訓練想定: 平成26年11月1日(土)午前9時30分、釧路沖を震源とする強い地震が発生。
浜中町では震度6強を観測した。北海道太平洋沿岸に大津波警報が発表され、ただちに、町長が「避難指示(訓練)」を発令。

■日 時: 平成26年11月1日(土)9:30～12:00
シェイクアウト訓練 9:30～
津波避難訓練 9:32～
防災学習 10:00～10:30
パネル展示 10:30～12:00

■実施体制: 主催／内閣府、浜中町
協力／北海道警察釧路方面本部、北海道警察釧路方面厚岸警察署、
陸上自衛隊釧路第27普通科連隊、釧路東部消防組合浜中消防署

■参加者: 約300名(住民、霧多布小学校、霧多布保育所)

訓練報告

当日の訓練内容

9:30～ シェイクアウト訓練

震度6強の大地震が発生したことを想定し、浜中町全域を対象にしたシェイクアウト訓練を実施した。
地震発生からの約2分間、その場で机の下に隠れるなどの身の安全を守る行動を実施した。

▼霧多布小学校での訓練風景



▼霧多布保育所での訓練風景



9:32～ 津波避難訓練

大津波警報発令を受け、避難行動を開始。霧多布小学校・保育所では、海拔約45mの高台にある避難所(霧多布温泉ゆうゆ)まで避難した。

避難路は避難所の開設に合わせて整備された。

▼高台に駆けあがる子ども達



▼保育園児は保育士・職員が誘導



10:00～ 防災学習

避難完了後、避難所にて防災学習を実施した。児童向けには東北大学災害科学国際研究所による防災講座、園児向けには厚岸警察署による防災紙芝居をそれぞれ開催した。

▼東北大学による防災講座



▼防災紙芝居「さいがいのおはなし」



10:30～ 防災イベント

避難所の駐車場では、陸上自衛隊・警察・消防の災害救助車両展示や、陸上自衛隊による炊き出し訓練も実施した。また、浜中町の過去の災害被害写真や東日本大震災の被災地東北の被災写真なども展示し、防災意識の啓発を行った。

▼災害救助車両の展示



▼写真展による防災の啓発



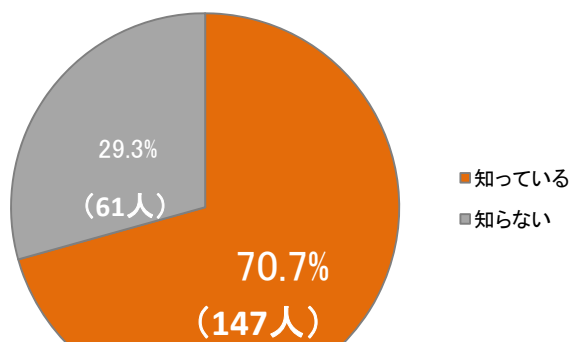
今後に向けた課題

アンケート結果

●アンケート回答者(計208サンプル):

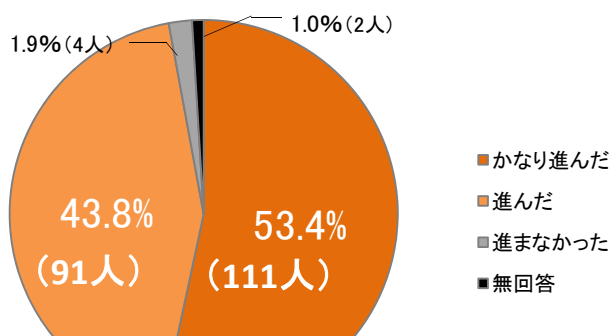
訓練当日に参加した住民(95サンプル)、霧多布小学校1～3年生(53サンプル)、4～6年生(60サンプル)

Q. 11月5日が「津波防災の日」と
知っていますか？



7割以上の住民が
「津波防災の日」を認知！

Q. 訓練を行って、地震・津波災害の
理解が進んだと思いますか？



理解が進んだと回答した
住民は97%超！

訓練の評価・課題等(浜中町より)

1. 訓練を実施して良かった点
 - 「津波防災の日」(11月5日)を町民に周知することができた。
 - 「シェイクアウト訓練」を町民に広げることができた。
2. 次回以降、改善したい点
 - 今回は霧多布地域のみに限定した津波避難訓練だったため、今後は、実施地域を広げて一般町民も対象とした訓練を実施したい。
3. 浜中町としての避難課題
 - 車避難による交通渋滞
 - 避難ルートが少ない
 - 冬期間の避難
 - 避難者の収容(収容しきれない)
 - 備蓄意識の醸成
4. 課題を踏まえて現在取組んでいること、これから取組みたいこと
 - 交通渋滞: 渋滞が予想される既存路線の複線化を進めるなどの車避難のルールづくり
 - 避難ルート: 今年度より計画的に新たな避難ルート建設を進める
 - 冬期避難: 実際に訓練を行い、(冬期ならではの)新たな課題を洗い出す
 - 避難者収容: 避難計画の作成
 - 備蓄意識の醸成: 避難所・避難場所への備蓄コンテナ等の設置
5. 総括
 - 11月の訓練を初めて実施したが、予想以上に町民参加(防災イベント、アンケート調査)が多く、大いに訓練成果があった。

平成26年度内閣府 地震・津波防災訓練 【宮城県多賀城市】

実施報告書
(概要版)

実施概要

宮城県多賀城市について

宮城県多賀城市は宮城県のほぼ中央に位置する都市で、仙台市の北東にあり市街地は丘陵地帯上にあります。市の名称は陸奥国府「多賀城」に因み、史跡が市内の各所に点在し「史都多賀城」と表わされるように由緒ある歴史のまちです。多賀城跡は国の特別史跡として指定され、継承すべき「美しい日本の歴史的風土100選」に選ばれています。

仙台駅から多賀城駅までは普通電車で22分、快速電車で11分と鉄道等のアクセスが良く交通の便の良い市です。

人口は、約63,000人。



参照：宮城県HPの地図に加筆

訓練概要

- 訓練想定：平成26年11月9日（日）午前8時45分、宮城県沖を震源とするマグニチュード9.0の強い地震が発生、多賀城市では震度6強を観測した。

地震発生と同時に、市内全域にわたって多くの被害が発生し、建物等が倒壊したほか、交通障害や電気、ガス、水道、通信等の施設にも被害が出てライフラインが寸断された。

さらに午前8時50分、仙台管区气象台から太平洋沿岸部に大津波警報が発表された。

- 日 時：平成26年11月9日（日）8:45～12:00

シェイクアウト訓練 8:45～

津波避難訓練 8:50～

地区別訓練 10:30～

〔市役所での災害対策本部設置訓練、市内の主な避難所10箇所での訓練を含み、全49か所の会場で訓練を実施。〕

- 実施体制：主催／内閣府、多賀城市

協力／東豊中学校、高崎中学校及び地区住民組織、

陸上自衛隊第22普通科連隊・第38普通科連隊

・第6飛行隊、多賀城消防署、多賀城市消防団

- 参加者：約10,000人

（住民、多賀城市内の全小・中学校及び多賀城高校）

訓練報告

当日の訓練内容

8:45～シェイクアウト訓練

震度6強の大地震を想定し、多賀城市内全域を対象にしたシェイクアウト訓練を実施した。地震発生からの1分間、その場で机の下に身を寄せるなどの身の安全を図る行動を実施した。



▼高崎中学校



8:50～災害対策本部設置訓練

市災害対策本部を市役所会議室に設置し、訓練を実施した。その後、市ではGPSによる被害情報共有訓練を実施した。

▼市災害対策本部設置訓練



▼GPSによる情報共有訓練



8:50～津波避難訓練

住民が各所で指定された集合場所に避難する訓練(要配慮者を含む)を実施した。また、大規模避難所に指定されている小・中学校で、避難所開設訓練を実施した。

▼要配慮者避難訓練



▼避難所開設訓練



10:30～地区別訓練

各地区では自主的に訓練を実施した。メイン会場の東豊中学校では自衛隊による救出救助訓練、高崎中学校では消防による救出救助訓練を実施した。

▼自衛隊による救出救助訓練



▼消防による救出救助訓練



アンケート結果

アンケートは各地区のリーダーに依頼。内容は記述式で、21地区から回答が寄せられた。主な意見は次の通り。

- 防災行政無線(同報系)は聞こえないと回答したところが7地区あった。
- 生徒との合同訓練として、濃煙体験訓練、初期消火訓練、バケツリレー訓練、応急担架訓練、炊き出し訓練を実施すべきとの提案があった。
- 新たな訓練として、救急訓練、高所避難訓練、倒壊家屋からの救出訓練を実施すべきとの提案があった。

訓練の評価・課題等(多賀城市より)

訓練の評価は大きく以下の二つに分けられる。基本的に「全員参加型」で実施し、住民と小・中学生と一緒に訓練を実施したことと、シェイクアウト訓練を一斉に実施したことである。

1. 住民と小・中学生による全員参加型

- 今回の訓練は、学校と一緒に実施することができた地区もあり、そのような地区では生徒と住民の交流が出来て良かったという声があった。
- 一方で、生徒との合同による訓練が少なかったとの声もあった。生徒との訓練は、炊き出しのみとしたところが多いが、それでも良かったという地区と、それ以上の訓練を求めた地区もあり、地区の意向に応じて改善を図る必要がある。
- 以上のように、今後も住民と小・中学生との合同による訓練が求められている。

2. シェイクアウト訓練による一斉全員参加型

- シェイクアウト訓練は、今回、多賀城市では初めて試みた訓練であったが、全員参加型で取り組みやすい訓練であり、市としては毎年実施して行く意向である。

平成26年度内閣府 地震・津波防災訓練 【千葉県いすみ市】

実施報告書
(概要版)

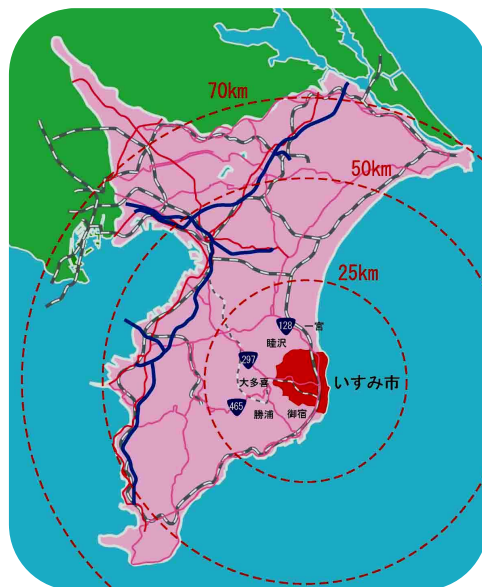
実施概要

千葉県いすみ市について

千葉県いすみ市は、平成17年12月5日に旧夷隅町と旧大原町、旧岬町の3町が合併して誕生した温暖な気候と肥沃な耕地に恵まれ四季折々の農作物が豊かに実る「田園都市」です。

千葉県の南東部に位置し、東京都心から75km圏内、千葉市からは45km圏内の位置にあり、市の東側は太東～岩船まで約21.5kmが太平洋に面し、北部は長生郡一宮町、睦沢町に、西部は大多喜町に、南部は勝浦市、御宿町に接しています。

人口は約40,000人。



参照：「いすみ市総合計画（基本構想）」より

訓練概要

- 訓練想定：11月8日（土）9時00分頃、房総半島沖を震源とするM8.2の大きな地震が発生し、いすみ市では震度6強を観測し、建物の倒壊や道路の破損等、大きな被害が発生した。

9時03分に大津波警報（巨大）が発表（津波到達時間：大原漁港20分）された。いすみ市は、ただちに、住民に対し防災行政無線・いすみ市防災メール等で津波からの避難を呼びかけるとともに、災害対策本部（現地）を設置した。

9時20分頃、沿岸部に9m以上の津波が押し寄せ、家屋や車両等が流出するなど甚大な被害が発生。大原・岬地域の避難所は津波の浸水で使用できないため、夷隅地域の指定避難所の開設を決定した。

- 日 時：平成26年11月8日（土）9:00～13:00

第一部	情報伝達・広報・津波監視訓練	9:00～
	津波避難訓練	9:03～
	孤立者の救助訓練	9:35～
	避難者の輸送及び受入れ訓練	9:35～
	炊出し訓練等	11:00～
第二部	体験型訓練及び防災啓発	11:00～
	行方不明者の捜索・救助訓練	11:00～
	救護所開設・災害医療活動訓練	11:22～

- 実施体制：主催／内閣府、千葉県、いすみ市

- 参加者：約2,500名（住民、市外在住者、関係機関（5ページ参照））

当日の訓練内容

■第一部 津波避難対象地域

09:00～ 情報伝達・広報・津波監視訓練

震度6強の大地震が発生し、大津波警報(巨大)が発表されたことを想定し、各家庭等で身を守る訓練を行った後、市役所、広域消防、警察署、郵便局、消防団による避難を促す広報を実施するとともに、高台からの消防団による津波監視を行い、消防団本部へ状況を報告した。

▼千葉市消防局ヘリによる情報周知



▼津波監視訓練



09:03～ 津波避難訓練

住民参加による津波緊急避難場所への避難訓練をはじめ、大原、太東の両海水浴場では、オレンジフラッグを掲揚し、津波の危険を海水浴客に知らせ、指定された高台への避難誘導訓練を行った。

さらに、要配慮者の避難訓練として、第三保育所の園児を高台まで避難させる訓練を実施し、第三保育所から一時避難場所である教習所跡地まで徒歩で誘導、そこから農村環境改善センターまでバスで輸送した。

▼住民参加による避難訓練



▼観光客の避難訓練



▼要配慮者の避難訓練



09:35～ 孤立者の救助訓練

ヘリコプターにより孤立者を避難させる訓練を実施した。

いすみ市文化とスポーツの森野球場から、陸上自衛隊第1ヘリコプター団の大型ヘリコプター(CH47・通称チヌーク)にて体験飛行を行った。

CH47は輸送力に優れ最大55名、約8tの物資を空輸可能

▼CH47に乗り込む訓練参加者



▼参加者を乗せて飛び立つCH47



09:35～ 避難者の輸送及び受入れ訓練

緊急避難場所に避難した被災者を、より安全な場所へ輸送する訓練を実施。自衛隊大型車両が住民を広域避難場所であるいすみ市文化とスポーツの森へ輸送するとともに避難者受入訓練を実施した。

また、併せて市現地災害対策本部開設訓練を実施した。

▼自衛隊車両に乘車する参加者



▼避難者の受入れの様子



当日の訓練内容(続き)

■第二部 いすみ市文化とスポーツの森

11:00～ 炊出し訓練等

陸上自衛隊高射学校、千葉県エルピーガス協会長夷支部、いすみ市女性の会連絡協議会、いすみ市赤十字奉仕団、自主防災組織（伊能滝・上寄瀬・四堰）による炊き出し訓練を実施し、おにぎり、豚汁等の配布を行った。また、陸上自衛隊需品学校による足湯の設置訓練も行われた。

▼炊き出し訓練



▼足湯の設置訓練



11:00～ 体験型訓練及び防災啓発

消火器体験、地震体験、災害自動販売機体験、水電池の展示、災害派遣活動等の写真やパネル展示・DVD上映、地震災害時の家具の動きのDVD上映、各種展示（マイコンメーター・ガス器具等、住宅用火災警報器、家具転倒防止金具、防災テント（ミニチュアモデル）、防災用マットレス、簡易トイレ・ランタン作成等、災害時の郵便の取り扱い）、飲料水等の配布などを実施した。

▼千葉県の起震車による地震体験訓練



11:00～ 行方不明者の捜索・救助訓練

陸上自衛隊高射学校、千葉県警察本部、夷隅広域消防本部、日本赤十字社千葉県支部による行方不明者捜索・救助訓練を実施した。

千葉県警察本部第三機動隊が保有する急斜面や悪路、冠水地域でも走行が可能なユニモグ等で被災者の捜索を行い、瓦礫の中に取り残された被災者を油圧ジャッキやウィンチカッターなどを用いて救出を行った。

▼行方不明者捜索・救助訓練



▼県警第三機動隊による救助訓練



▼夷隅広域消防本部による救助訓練



▼自衛隊による救助訓練



11:22～ 救護所開設・災害医療活動訓練

夷隅広域消防本部、日本赤十字社千葉県支部及び夷隅医師会による救護所開設・災害医療活動訓練を実施した。

訓練では、エアータントを設置し、負傷者の搬送順位を決めるトリアージ訓練や応急治療の訓練を行った。

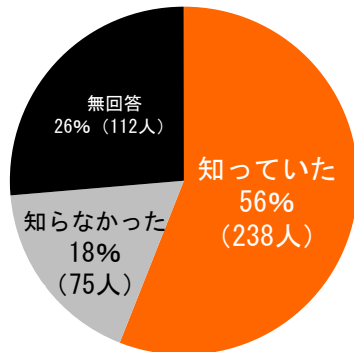
▼トリアージ訓練の様子



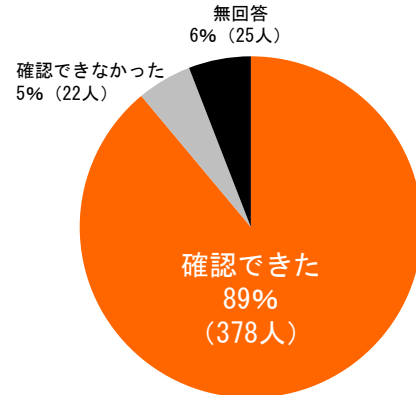
今後に向けた課題

アンケート結果

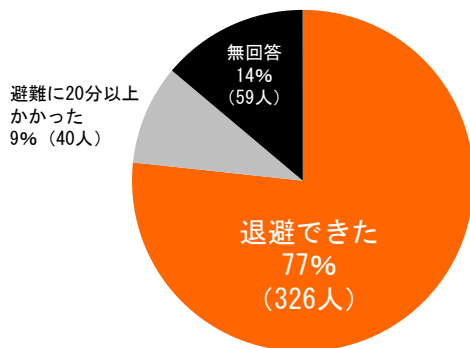
11月5日が津波防災の日であったことを
ご存知ですか？（回答者数=425）



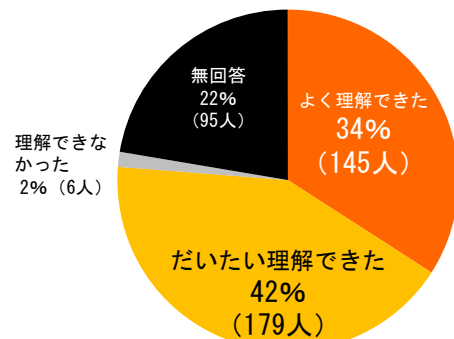
津波避難の呼び掛け等は確認できましたか？
（回答者数=425）



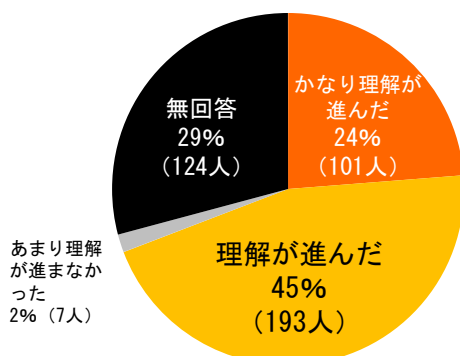
20分以内に避難できましたか？
（回答者数=425）



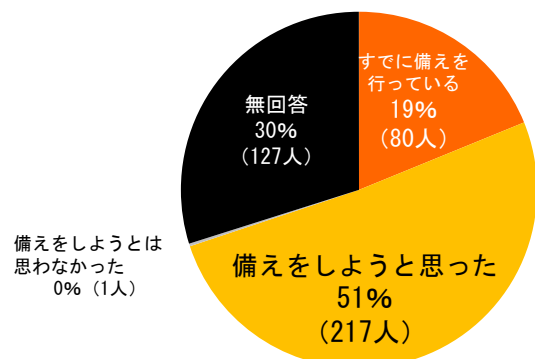
行方不明者の捜索・救護所開設・災害医療訓練に
ついて、訓練の内容が理解できましたか？
（回答者数=425）



訓練に参加して、津波等の災害の理解が
進んだと思いますか？
（回答者数=425）



訓練に参加して災害へ備えようと思いましたか？
（回答者数=425）



訓練の評価・課題等 (いすみ市より)

- 人口40,962人の自治体として広範な参加者を得た訓練を行い、子供から老人まで100%参加という高い理想の実現に向けて、さらに努力を進めていく。
- 関係機関の被災対応装備機能等について一般市民にも理解できるわかりやすい解説を行い、行政の災害対応に対して自助の必要性を訴えて訓練を促した。
- 東日本大震災の直後と比較して第一部訓練における津波避難訓練への参加者数が、減少しているため、引き続き防災啓発活動を通じて、市民の防災に対する意識を高揚させていく。
- 防災無線が聞き取りづらい地域があったことから、防災無線の難聴地域の解消に向け、改善施策等を実施していく。
- 市の北側沿岸部においては、時間内に多数の市民が避難できる場所がないため、人工的な築山や避難タワーの設置に関し、財政的負担や土地の確保等の課題を克服し、市民の命を守るという観点から津波避難施設等の整備に関し検討していく。
- 災害発生時に情報共有や円滑な情報伝達をどのように行うかが課題であることから、防災訓練等を通してより良い方策を講じていきたい。
- 自主防災組織のカバー率が低いため、他の先進自治体における事例を参考としながら、今後も地域防災力の向上及び活性化について努力していく。
- 緊急避難場所の把握ができていない市民が見受けられることから、引き続き、防災啓発活動等を実施していく。
- 一人では津波避難できない避難行動要支援者の避難要領が課題であることから、官民一体となって知恵を出し合い、避難行動要支援者の円滑な避難について準備を進める。
- 災害により通常の通信手段が使用できなくなった場合の緊急対応が課題のため、関係機関・団体への緊急用通信媒体の確保と、緊急時の対応が可能となるよう、今後計画的にその整備を図っていく。

■参加機関

千葉県危機管理課、千葉県警察本部、いすみ警察署、陸上自衛隊高射学校・需品学校・第1ヘリコプター団・千葉地方協力本部、勝浦海上保安署、千葉市消防局、市原市消防局、夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部、いすみ市消防団、(一社)夷隅医師会、千葉県夷隅健康福祉センター、日本赤十字社千葉県支部、いすみ市赤十字奉仕団、いすみ市女性の会連絡協議会、夷隅東部漁業協同組合、いすみ市社会福祉協議会、NPO法人千葉県防災士会、東京電力(株)木更津支社、東日本電信電話(株)千葉支店、千葉県エルピーガス協会長夷支部、千葉土建一般労働組合いすみ支部、いすみ市内郵便局、(株)伊藤園茂原支店、大塚食品(株)東京支店千葉営業所、(有)いすみ自販、(株)クラレ・ハイランドテクノ(株)、アクモホールディングス(株)、(有)小永、いすみ市観光協会、いすみ市商工会、いすみ市内自主防災会(伊能滝・四堰地区・上寄瀬区・長者区第5・長者第一町会)、大原はだか祭り実行委員会、大原民宿組合、外房大原旅館組合、いすみ市サーフィン業組合、いすみ市宿泊業組合、NPO法人日本プロライフガード協会、岬町海の家組合

平成26年度内閣府 地震・津波防災訓練 【愛知県西尾市】

実施報告書
(概要版)

実施概要

愛知県西尾市について

西尾市は、愛知県のほぼ中央を北から南へ流れる矢作川流域の南端に位置し、東に三ヶ根山などの山々が連なり、西に矢作川が流れ、南は三河湾を臨みます。実り豊かな大地と温暖な気候が相まって、古くは縄文の頃より人の暮らしが営まれてきました。

西三河南部地域の中核的な都市として自動車関連産業の発展とともに成長を続けてきました。一方で日本有数の生産量を誇る抹茶（てん茶）やカーネーション、養殖うなぎ、アサリなど農水産物の生産拠点としても発展しています。

人口は約170,000人となっています。

平成26年5月に愛知県防災会議より発表された、「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果」によれば、過去地震最大モデルによるシミュレーションで、西尾市は津波高4.4m、浸水面積は県下最大の5,173haとなると想定されました。建物被害は約15,000棟、人的被害（死者数）は約1,800人にのぼるとされています。

愛知県下では最大級となるこの想定を西尾市は強く受け止め、昨年に引き続いて「17万人市民まるごと防災訓練」を実施し、対策に取り組んでいます。



参照:西尾市ホームページ

訓練概要

- 訓練想定：11月5日（水）午前9時、南海トラフを震源とするマグチュード9.0の地震が発生した。
午前9時4分、名古屋地方気象台より大津波警報が発表された。

- 日 時：11月5日（水）

第一部 初動訓練（市内各地） 9:00～10:00
シェイクアウト訓練・樋門操作訓練 9:00～
津波避難訓練 9:04～

第二部 実動訓練（坂田球場及び周辺） 9:05～12:00
応急施設設営訓練 9:05～
被災情報収集訓練 9:20～
救出・救助訓練 9:40～
炊出し訓練 10:00～
展示・体験 10:00～
消火・障害物除去訓練 11:00～

- 実施体制：主催／内閣府、西尾市

- 参加者：約36,000人

住民、吉良高校、一色中学校、一色中部小学校、一色南部小学校、一色東部小学校、一色西部小学校、白浜小学校、白浜保育園、関係機関・団体等
(5ページ参照)

※17万人市民まるごと防災訓練として実施（153団体）

訓練報告

当日の訓練内容

■第一部 津波避難対象地域

9:00～ シェイクアウト訓練等

地震発生想定時刻の9:00に同報無線等で緊急地震速報が伝達され、市役所をはじめ関係機関が初動体制を構築した。市内の全域でシェイクアウト訓練を実施するとともに、消防団による樋門操作訓練を実施した。

▼シェイクアウト訓練



▼消防団による樋門操作訓練



9:04～ 津波避難訓練

大津波警報の発表を受け、白浜地区の吉良高校、白浜小学校、白浜保育園の園児・児童・生徒と地域の自主防災会有志は、高台である正法寺古墳公園に避難した。

▼交通指導員等の誘導で避難する小学生



▼正法寺古墳公園に避難



■第二部 実動訓練会場（坂田球場及び周辺）

実動訓練会場となった坂田球場及び周辺海上、空域では、42の訓練参加機関・団体等が相互に協力して約60項目にわたる実動訓練を展開した。

9:05～ 応急施設設営訓練

坂田球場を避難所と想定し、市現地災害対策本部、臨時ヘリポートをはじめ、各施設を設営して訓練を行った。

▼市現地災害対策本部の設営



▼応急救護所の設営



9:20～ 被災情報収集訓練

被災地の通信環境、情報収集体制の確保を行った。郵便局、陸上自衛隊、県警機動隊のバイクにより早期の被災情報収集を行い、指揮系統に伝達する訓練を実施。

▼県警先行情報隊による被災情報収集



▼上空から避難広報・被災情報収集にあたる県警ヘリ



(次ページに続く)

訓練報告

当日の訓練内容（続き）

9 : 40～ 救出・救助訓練

倒壊ビル、倒壊家屋からの救出・救助、海上に流出した家屋からの救出・救助など、情報伝達、捜索、救助、負傷者搬送にいたる一連の訓練を各機関が連携して行った。

▼被災者を捜索する災害救助犬



▼航空自衛隊ヘリによる海上流出家屋からの被災者救出・救助



10 : 00～ 炊出し訓練

陸上自衛隊、西尾市赤十字奉仕団及び中学生が、おにぎり、豚汁を調理して来場者に提供した。
また、西尾市婦人消防クラブは、被災後数日が経った時点を想定し、調理方法や献立を考案して、ポリ袋で調理した料理を提供した。

▼炊出し訓練に参加する中学生



▼西尾市婦人消防クラブのポリ袋炊飯



10 : 00～ 展示・体験

坂田球場及び周辺の実動訓練会場では、23の機関が展示や体験コーナーを展開した。

▼地震体験車「なまず号」



▼津波救助艇乗船体験



11 : 00～ 消火・障害物除去訓練

自主防災会による初期消火訓練と消防ポンプ車による消火訓練を行った。また、西尾市建設業災害防止協会による道路の障害物除去訓練も行った。

▼消火器による初期消火訓練



▼障害物除去訓練



今後に向けた課題

アンケート結果(記述式)

- 1 今回の訓練は有用であったか
 - 有用(有意義)であった。防災意識の高揚が図れた。
 - スムーズな進行を行うため、詳細な調整及び周知が必要であった。
- 2 訓練での改善点
 - 津波避難訓練は、浸水が想定される他の地域でも実施できると良い。
 - 高台が近くにはない海岸線付近の住民を対象とした津波避難訓練の実施について検討して欲しい。
 - 参加者は防災意識が高く、関心のある人であるが、参加していない人に対する工夫が必要。
 - 会場内の放送アナウンスが聞こえにくかった。
 - 他会場の訓練の様子を大型スクリーン等で見るのができたほうが良い。
 - 非常食の配布だけでなく、他の参加者との意見交換できる場が欲しかった。
 - 一斉放水訓練は不要。より実践的な訓練を実施すべき。
- 3 日程、実施項目等についての改善
 - 平日でなく土曜又は日曜日の実施を希望。
 - スケジュールは年度の初めに連絡して欲しい。
 - 一般住民が協働する訓練項目を増やして欲しい。
- 4 今後どのような訓練が必要か
 - 同様の展示型訓練
 - 他機関及び住民と連携した応用力を習得できる訓練
 - 校区規模の訓練
 - 医療連携訓練
 - 避難所運営訓練
 - 海上(船舶)輸送、物資拠点、陸上(トラック)輸送等の一連の流れによる緊急物資輸送訓練
 - 情報連係、情報共有、連絡体制の構築、情報収集訓練
 - 外国人を対象とした訓練
 - 小型船の利点を生かした訓練
- 5 小中学生の参加について
 - 小中学生に対する防災意識を高めることができ、有意義であった。
 - 責任感と連帯意識醸成に繋がり、大きな成果が得られた。
 - 地域との結びつき、相互扶助の心を養う上で非常に意義があった。
 - 有事の際大きな力を発揮してもらえることが期待でき、今後も積極的に同様の訓練に参加すべきである。
 - 中学生が訓練の目的及び要領等をあまり理解しておらず、事前の防災教育等の十分な説明が必要であった。
 - 中学生自身が考えた主体的な訓練を実施する必要がある。

今後に向けた課題（続き）

訓練の評価・課題等（西尾市より）

本訓練では、「南海トラフ巨大地震にあらゆる力を結集して立ち向かう…西尾市の未来のために」をスローガンに、市内の小中学生約1,500名が参加した。実動訓練への参加や展示・体験を通じて、西尾市の未来を担う小中学生の防災意識の向上を図れたものとする。また、中学生の防災力発揮を重点に、炊出し、避難所開設訓練等を実施したが、中学生の力が予想以上の戦力になることが判明した。

多数の防災関係機関の参加を得て、地震・津波災害への対応の練度向上並びに国と防災関係機関との連携強化や地域の防災体制の確立、住民の防災意識の高揚を図ることができたものとする。

今回の訓練は有用（有意義）であったとの回答が多数の参加機関から得られ、全般としては、問題なく訓練が実施できたものとする。

準備期間が5か月とかなり短かったが、多くの参加機関からは、準備期間等は適正であったとの意見が大多数であった。

展示型の訓練については、大多数の参加機関が継続実施を望んでおり、「17万人まると市民防災訓練」を実施しつつ、展示型の訓練についても実施したほうが良いものとする。また、最も重要な情報連絡、情報収集等の訓練については、多くの機関が訓練の継続を希望していることから、今後も重点的に実施していく必要がある。

一方で、次のような課題が指摘された。

○「中学生が訓練の目的を理解していない」、「中学生自身が考えた主体的な訓練が必要」等の意見があり、小中学生には事前に十分な防災教育を実施した上で訓練に臨ませる必要がある。

○休日（土曜、日曜）の防災訓練実施を要望する意見が多かった。

○同報無線の放送が聴きとれないとの意見が多数寄せられた。

参加機関

愛知県、愛知県警察、国土交通省中部地方整備局、国土交通省中部運輸局、陸上自衛隊第10師団・第10特科連隊第3大隊、航空自衛隊小牧基地、自衛隊愛知地方協力本部、第四管区海上保安本部、名古屋地方気象台、日本赤十字社愛知県支部、西日本電信電話(株)名古屋支店、(株)NTTドコモ東海支社、ソフトバンクモバイル(株)、KDDI(株)中部総支社、(一社)愛知県警備業協会、NPO法人愛知災害救助犬協会、愛知県生活協同組合連合会、(一社)愛知県道路標識・標示業協会、日本郵便(株)西尾郵便局、中部電力(株)西尾営業所、西尾市建設業災害防止協会、愛知県LPガス協会西三河支部南分会西尾地区会、(株)キャッチネットワーク、愛知県トラック協会西三支部西尾部会、西尾市消防設備点検協同組合、東邦ガス(株)、西尾市赤十字奉仕団、(公社)中部小型船安全協会、パラモーター パラ・くるう・ピエロ、西尾市婦人消防クラブ、(株)ミズノマリン、西尾幡豆医師会、西尾市歯科医師会、西尾市薬剤師会、西尾市社会福祉協議会、西尾市消防本部、西尾市一色消防団、西尾市吉良消防団、西尾市幡豆消防団、西尾アマチュア無線クラブ、吉良防災ハムクラブ、三ヶ根通信ボランティア、県立吉良高等学校、市立一色中学校、市立一色中部小学校、市立一色南部小学校、市立一色東部小学校、市立一色西部小学校、市立白浜小学校、市立白浜保育園、一色中部小校区自主防災会連絡協議会、一色東部小校区自主防災会連絡協議会、一色南部小校区自主防災会連絡協議会、一色西部小校区自主防災会連絡協議会、白浜小校区自主防災会連絡協議会、佐久島小校区自主防災会連絡協議会、西尾市地区交通指導員会、岐阜県恵那市、福井県越前町

平成26年度内閣府 地震・津波防災訓練 【和歌山県広川町】

実施報告書
(概要版)

実施概要

和歌山県広川町について

広川町(ひろがわちょう)は、和歌山県の中心に位置し、有田郡の最南端にあり、町の中央には広川が流れ、紀伊水道に注いでいます。広川町の人口は約7,600人ですが、その2/3にあたる約5,000人が海岸沿いで生活をしています。



広川町では、毎年恒例の津浪祭を行っています。これは、町内の平穏無事と過去の津波により犠牲になった人々の冥福を祈るとともに、住民の生命と財産を津波から守るため私財を投げ打って大堤防を築いた濱口梧陵らの偉業に感謝し、伝承するものです。このように津波防災の日が制定された経緯と最も深くかかわっているのが広川町であり、まさに、津波防災発祥の地ともいえる土地柄です。

参照: 広川町ホームページ

訓練概要

■訓練想定: 11月の平日10時15分に、南海トラフを震源とするM8.0の大規模な地震が発生し、広川町内では震度6弱を記録。地震発生直後より、大津波警報が発表され、広川町は、ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対して、防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。

■日	時: 平成26年11月5日(水)	10:00~12:15
	情報伝達訓練	10:00~10:17
	シェイクアウト訓練	10:15~10:16
	津波避難訓練	10:17~10:40
	物資配給訓練	10:40~11:00
	(炊き出し訓練含む)	
	講演会	11:15~12:15

■実施体制: 主催／内閣府、和歌山県、広川町

■参加者: 約1,300名

住民、なかよし子ども園、ポッポ保育園、広小学校、広小学校西広分校、
耐久中学校、津木中学校、たちばな支援学校、広川苑等

訓練報告

当日の訓練内容

10:15～ シェイクアウト訓練

町内全域に参加を呼びかけ、防災行政無線の放送を合図に町内一斉訓練としてシェイクアウト訓練を実施。およそ町の人口の17%にあたる1,300人が参加した。
(日本シェイクアウト提唱会議の認定を受けて実施)

▼なかよし子ども園



▼広小学校



10:17～ 津波避難訓練

防災行政無線のサイレンを合図に、生徒・児童・園児・住民が津波避難場所である広八幡神社及び、たちばな支援学校第2駐車場等まで避難し、津波到達時刻の前に余裕をもって避難を完了できた。

▼全力で走って避難



▼手を取り合って避難



10:40～ 物資配給訓練

津波避難場所(広八幡神社及びたちばな支援学校等)において、広川町職員から、物資(啓発用防災用品)を配給。この際、避難時に個人の備蓄物資を携行することの重要性を町職員が説明した。

▼園児の配給受け



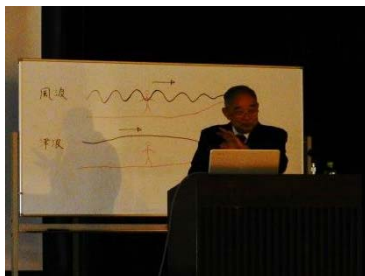
▼上級生による物資配給



11:15～ 講演会

「稲むらの火と広村堤防」の著者である津村建四朗先生を講師に招き、『ふたつの稲むらの火』と題した講演会を実施。耐久・津木中学校生徒及び地域住民の方々約300名が熱心に聞き入った。

▼津村先生による講演



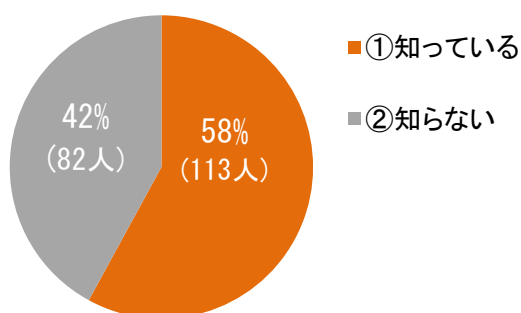
今後に向けた課題

アンケート結果

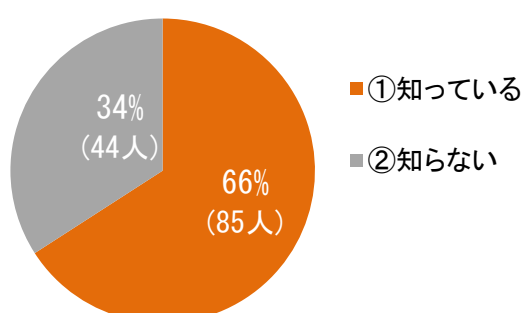
児童・生徒の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？

▼中学生（196人）

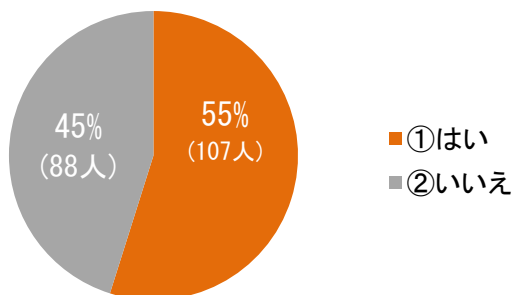


▼小学生（130人）

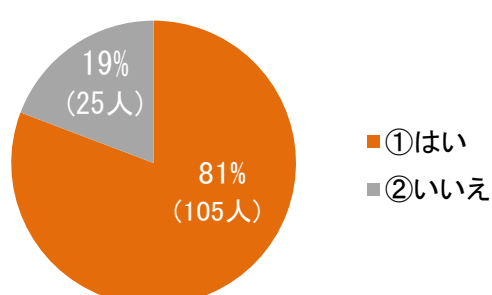


問 広川町ハザードマップを見たことがありますか？

▼中学生（196人）



▼小学生（130人）



訓練の評価・課題等

訓練当日は晴天に恵まれ、児童、生徒、園児や地域の住民等を合わせて約1,300名の参加者があり、終始熱心かつ真剣に訓練に取り組んでいた。

訓練実施後、町の教育委員会も協力して中学校、小学校の特性を踏まえたアンケートを作成して実施し、関係した職員等による所見及びアンケート結果等の分析を行い、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう、「課題と対策案」として整理した。この結果、危険個所の横断時の職員による誘導は適切で、避難場所到着後の点呼による人員確認も迅速に行われ、迅速適切な避難行動だったという評価の一方で、次のような課題が指摘された。

- 広八幡神社は、町の中央部に位置し、誰もが認識している避難場所となっているが、通じる道路が1本に限定され、迂回も困難なことから全住民が避難して混雑した場合の対策を練っておく必要がある。
- 今回は健常者の避難をメインに捉えて実施したが、脚を怪我している者、脚の不自由な者、高齢者等はどうすればいいのかという問題点があり、これら要支援者の避難施設や避難道の整備及び避難支援体制の構築を進めていく必要がある。

平成26年度内閣府 地震・津波防災訓練 【山口県周防大島町】

実施報告書
(概要版)

実施概要

山口県周防大島町について

周防大島町(すおうおおしまちょう)は、人口約18,300人、山口県東南部に位置し、瀬戸内海に浮かぶ島では3番目の面積を有しています。島と本土とは大島瀬戸を渡る大島大橋によって連結しています。

地勢は大半が、600m級の山々からなる山地が占め、海岸部に狭隘な丘陵地が広がる程度です。

年間平均気温15.5℃と比較的温暖な、青く澄みわたる瀬戸内の海と四季の彩り豊かな美しい自然を有する町です。



参照：周防大島町ホームページ

訓練概要

■訓練想定:11月5日の平日午前10時に、南海トラフを震源とするM8.0の大規模な地震が発生し、周防大島町内では震度6弱を記録。地震発生直後より、大津波警報が発表され、周防大島町は、ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対して、防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。

■日	時:平成26年11月5日(水)	10:00~12:00
	シェイクアウト訓練	10:00~10:20
	(振り返り含む)	
	情報伝達訓練	10:00~11:00
	津波避難訓練	10:20~11:00
	物資配給訓練	10:40~10:55

■実施体制:主催／内閣府、山口県、周防大島町

■参加者:約250名

明新小学校、グループホームひまわり、グループホームこすもす、アマチュア無線大島クラブ、開作第二千歳会、砂堀自主防災会、周防大島町社会福祉協議会、柳井警察署

訓練報告

当日の訓練内容

10:00～ シェイクアウト訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置き、訓練参加者全員が、J-ALERTによる緊急地震速報を合図に、それぞれの場所で一斉に安全確保「まず低く、頭を守り、動かない。」を行った。また、終了後にそれぞれ振り返りを行った。

▼明新小学校



▼グループホーム



10:00～ 情報伝達訓練

協定を締結しているアマチュア無線大島クラブにより、小学校からの避難開始及び小学生の避難完了について、大島庁舎に設置された災害対策本部との情報の受送信を行った。

▼無線機器



▼避難完了報告



10:20～ 津波避難訓練

小学生は、柳井警察署の協力のもと、高台にある津波避難場所まで避難した。また、グループホームにおいては、車両による要配慮者の避難を行い、それぞれ避難要領の確認や防災意識の高揚を図った。

▼高台への避難



▼避難者の受入れ



10:40～ 物資配給訓練

津波避難場所(高台)及び大島庁舎(しまとぴあスカイセンター)において、周防大島町社会福祉協議会の協力のもと、物資(啓発用防災用品)の配給が行った。

▼小学生への配給



▼地域住民への配給



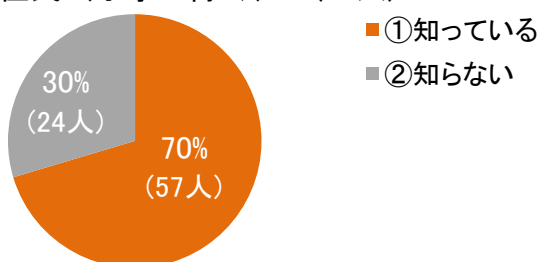
今後に向けた課題

アンケート結果

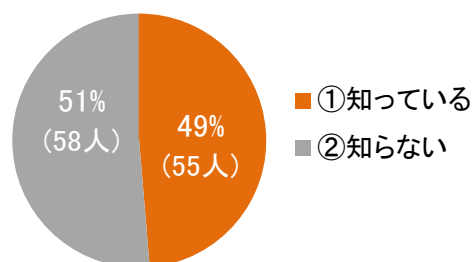
住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？

▼住民（小学生除く）（81人）

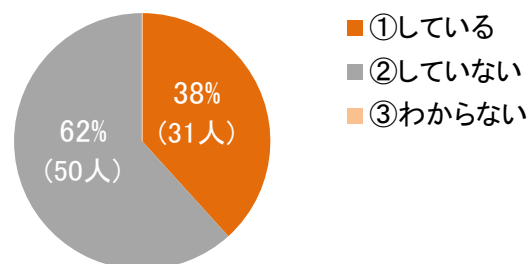


▼小学生（113人）

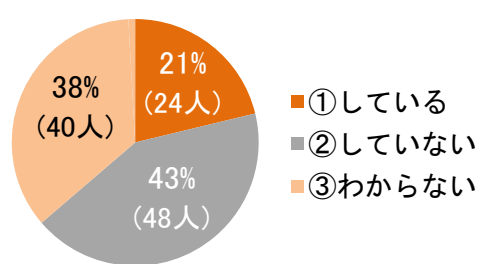


問 地震等に備えて、食料、水、非常用持出し袋等を準備していますか？

▼住民（小学生除く）（81人）



▼小学生（112人）



訓練の評価・課題等

訓練当日は晴天に恵まれ、小学生や地域の住民等を合わせて約250名の参加者があり、終始熱心かつ真剣に訓練に取り組んでいた。

訓練実施後、町長等による講評、職員等による所見、アンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう、「課題と対策案」として整理した。この結果、スムーズな安全行動をとっていた、避難行動が迅速、適切に行われていたという評価の一方で、次のような課題が指摘された。

- 校内では、廊下の掲示板や靴箱などの固定が不十分な部分が見受けられたことから、転倒・落下・移動防止措置を徹底する必要がある。
- 小学校やグループホームでは、シェイクアウト後に施設内の安全確認が実施されていたが、より効率的に行う必要があることから、事前に役割分担を定め、安全確認の手順等を訓練することが大切である。
- 本訓練において確認できた避難経路上の危険箇所（落橋の危険性）等を再整理し、複数の避難経路を検討することも必要である。

平成26年度内閣府 地震・津波防災訓練 【高知県大月町】

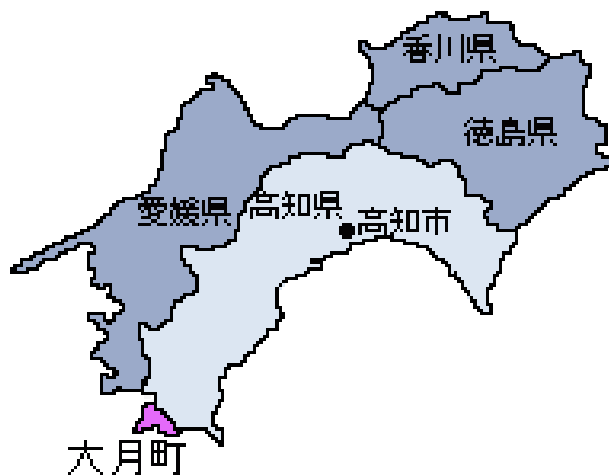
実施報告書
(概要版)

実施概要

高知県大月町について

大月町(おおつきちょう)は、高知県の西南端で、土佐清水市と宿毛市の間に位置し、南に太平洋を望み、黒潮洗うダイナミックな海岸線、西は比較的静穏な豊後水道に面した総面積103.03km²の町で、人口約5,700人、約7割を山林が占めています。

温暖な気候風土に恵まれ、漁業と農業の盛んなまちですが、足摺宇和海国立公園の自然美や海中景観を求めてくる観光客も多く、リゾートホテルやオートキャンプ場などの整備を行い、修学旅行などの誘致にも取り組んでいます。



参照:大月町ホームページ

訓練概要

■訓練想定:11月2日午前9時に、南海トラフを震源とするM9.1の大規模な地震が発生、大月町では震度7を記録。地震発生直後から津波警報が発表され、大月町は、ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し、防災行政無線により津波からの避難を呼びかけた。

■日 時:平成26年11月2日(日) 09:00~12:00

シェイクアウト訓練	09:00~
情報伝達訓練	09:00~
津波避難訓練	09:05~
炊き出し訓練・応急救護所の開設訓練	10:00~
ヘリによる負傷者救助訓練 (物資輸送訓練を含む)	10:00~

■実施体制:主催／内閣府、高知県、大月町

■参加者:約200名 ※シェイクアウト訓練のみの参加者を除く。

〔 大浦地区自主防災会、大月病院、高知県消防防災航空隊、
大月町消防団第7分団、幡多西部消防組合大月分署 〕

訓練報告

当日の訓練内容

9:00～ シェイクアウト訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに着目し、訓練参加者全員が、音声告知端末による緊急地震速報を合図に、それぞれの場所で一斉に安全確保「まず低く、頭を守り、動かない」を行った。

▼大浦地区



9:05～ 津波避難訓練

防災行政無線による大津波警報の一斉放送を合図に、大浦地区津波避難計画に基づき、地区内6か所の津波避難場所へ避難。避難にあたっては、高齢者同士が助け合いながら避難する姿が随所に見られた。

▼津波避難場所への避難



10:00～ ヘリによる負傷者救助訓練

避難行動中に発生した負傷者2名を医療機関に搬送する訓練とし、高知県消防防災航空隊への救助要請と、ヘリによる負傷者救助訓練を実施。この際、避難生活が続ける住民に対する医薬品の緊急輸送訓練を併せて行った。

▼負傷者救助訓練



10:00～ 炊き出し訓練・応急救護所開設訓練

拠点避難場所と想定した大浦集落の中心にある広場において、備蓄食料(アルファ米等)を使用した炊き出し訓練を実施。婦人会による炊き出しの間に、応急救護所の開設訓練及びAEDの使用法・止血法等の普及を図った。

▼炊き出し訓練



▼応急救護所の開設訓練

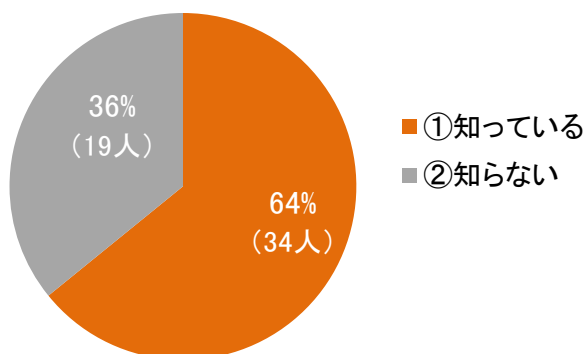


今後に向けた課題

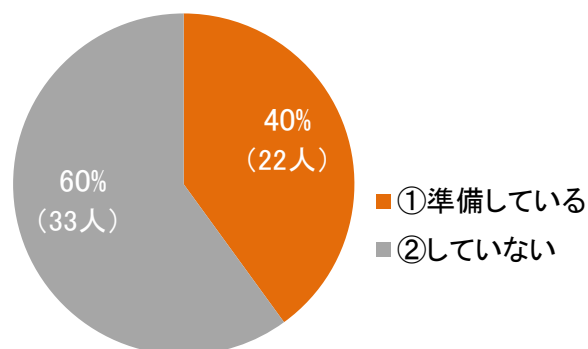
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。(回答数:55人)

問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？



問 地震等に備えて、食料・水・非常用持出し袋等を準備していますか？



訓練の評価・課題等

訓練当日の天候は曇り時々雨であり、訓練の一部中止や避難訓練への影響も懸念されたが、大浦地区自治会長をはじめとする参加者は終始熱心に訓練に取り組んでいた。特に大津波により、集落が孤立化することが懸念される大浦地区において、有効な救助手段として住民が期待を寄せていた「ヘリによる負傷者の救助訓練」も予定通り行われ、計画した全ての訓練を滞りなく実施した。

訓練実施後、大月町職員等による所見、アンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」として整理した。

この結果、参加者全員が、津波避難場所への経路を把握しており、かつ避難行動の開始も迅速であったという評価の一方で、次のような課題が指摘された。

- 避難行動要支援者に対する援助体制が、やや不十分である。要支援者に対する避難援助体制について、さらに検討する必要がある。
- 各津波避難場所の計画上の収容可能人員に対し、実際の避難者数が過多となった避難所が2箇所あった。個々(戸々)の避難場所の指定についても検討が必要と思われる。

平成26年度内閣府 地震・津波防災訓練 【宮崎県日南市】

実施報告書
(概要版)



内閣府

Cabinet Office, Government of Japan

実施概要

宮崎県日南市について

日南市は、人口約55,000人、宮崎県の南部に位置し、東に日向灘を臨み、西は都城市・三股町、南は串間市、北は宮崎市に隣接しています。宮崎市から日南市を経て鹿児島県に至る延長112kmは全国有数のリアス式海岸で、日南海岸国定公園の指定を受けています。

面積の約8割が山林等で、気象は平均気温が18.7度と太陽と海、みどりの山々に象徴されるように温暖多照の気候条件で日本で最も日照に恵まれた地域の一つです。特に冬季の日照時間は大変長く、冬型気圧配置で山沿いが曇っていても平野部は晴れている場合が多くなります。

一方で鰐塚(わにつか)山系を含む本市は、多雨地域で、四国の太平洋岸、紀伊半島の東部とともに日本の最多雨地帯となっています。



参照: 日南市ホームページ

訓練概要

■訓練想定: 11月6日の平日午前、南海トラフを震源とするM8.0の大規模地震が発生し、日南市内では震度6強を記録。発生直後より、大津波警報が発表され、日南市は、ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対して、防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。

■日 時: 平成26年11月6日(木) 9:30~12:10

	宮浦区	鵜戸区
シェイクアウト訓練	09:30~09:35	10:00~10:05
情報伝達訓練	09:30~10:00	10:00~10:40
津波避難訓練	09:35~10:10	10:05~10:40
物資補給・負傷者救出訓練	10:10~11:30	10:40~12:10

■実施体制: 主催／内閣府
共催／宮崎県、日南市

■参加者: 約300名

宮浦区自治会、鵜戸区自治会、鵜戸小中学校、宮浦保育所、鵜戸神宮、日南市サーフィン連盟、日南警察署、日南市消防本部、宮崎海上保安部、陸上自衛隊第43普通科連隊

訓練報告

当日の訓練内容

09:30～ シェイクアウト訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置き、訓練参加者全員が、緊急地震速報を合図に、それぞれの場所で一斉に安全確保「まず低く、頭を守り、動かない」を行った。

▼鵜戸小中学校



▼宮浦保育所



09:30～ 情報伝達訓練

サーフィン授業中の鵜戸中学校の生徒に対して、オレンジフラッグによる学校校舎及び海岸からの情報の伝達を行った。

▼オレンジフラッグによる情報伝達



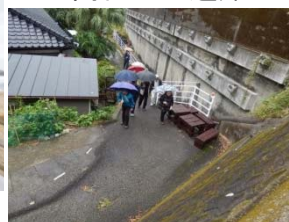
09:35～ 津波避難訓練

海岸で授業中の中学生や漁港付近の自宅にいた住民が津波緊急避難場所に指定されている高台に避難を実施した。

▼海岸からの避難



▼高台への避難



▼避難した保育園児



10:10～ 物資補給・負傷者救出訓練

鵜戸神宮第2駐車場に避難した住民に対して、宮崎県防災ヘリによる支援物資の補給訓練を実施。
また、鵜戸小学校の屋上からヘリによる負傷者救出訓練を実施した。

▼物資補給訓練



▼負傷者救出訓練



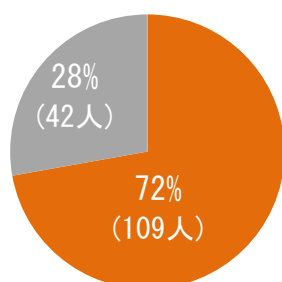
今後に向けた課題

アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

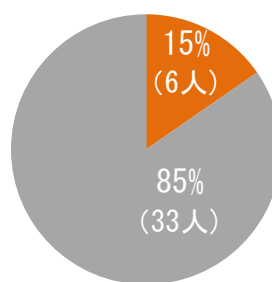
問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？

▼住民(小学生・保育園児除く)(151人)



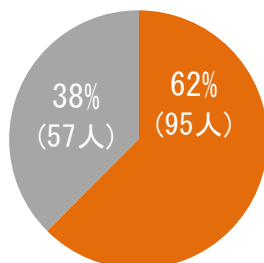
■①知っている
■②知らない

▼小学生・保育園児(39人)



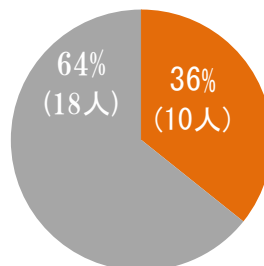
問 地震等に備えて、食料、水、非常用持出し袋等を準備していますか？

▼住民(小学生除く)(152人)



■①している
■②していない

▼小学生(28人)



訓練の評価・課題等

訓練当日は雨模様の中、小学校の児童や地域の住民等を合わせて約300名が参加し、終始熱心かつ真剣に訓練に取り組んでいた。

訓練実施後、市長による講評、アンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう、「課題と対策案」として整理した。この結果、スムーズな安全行動をとり、避難行動が迅速、適切に行われていたという評価の一方で、次のような課題が指摘された。

○シェイクアウト訓練においてサーフィン授業中の生徒が落下物の危険性はない海辺で頭を守る必要はなく、災害発生場所ごとにとるべき行動の検討が必要

○自治会長が避難誘導のため、参加者全員の避難終了後にかなり遅れて避難場所に到着していたが、実際の避難の際に同様の対応をとるべきかの検討が必要。